令和３年度
ベル歯科医院歯科医師臨床研修プログラム（抜粋）
【単独型】

研修プログラムの特徴

①幅広い歯科医師とチーム医療

臨床研修医のほか、５年研修プログラムに在籍する２～５年目の歯科医師２名、５年研修プログラムを卒業したベテラン歯科医師が２名在籍しています。研修医は身近な先輩歯科医師から多く　を学ぶことができます。

１人の患者さんに対して DR は診療を行い、DH は予防・メンテナンス、DA は診療補助や器材管理、受付が患者管理を行います。各職種が連携しながら患者さんに最適の診療を効率的に行っています。研修医はチーム医療の一員として患者さんの診療に当たる体験を積むことができます。

②最新設備

歯科用 CT、CO2 レーザー、マイクロスコープなどの設備が整っているので、最新の治療技術を習得できます。

③院内講習

院長執筆本「5 つのスキル」で治療姿勢や基本的な治療技術を学習し、担当患者の診療を通じて臨床技能を習得します。更に、技能レベルアップに応じて難易度の高い症例を担当することができます。なお、週１回スタッフボランティアによる研修医の相互診療実習を行っています。

④外部講習

各種外部講習会に参加し、知識を習得することができます。

⑤５年研修プログラム

５年研修プログラムとは、１年間の臨床研修を修了したあと引き続き４年間、う蝕・歯周病・咬合機能回復・審美回復、メンテナンスの臨床技能を徹底して習得する　当院独自のプログラムです。

１年間の臨床研修医を終えた後、所定の実績に達した者は５年研修プログラムの２年生へ進級（勤務継続）することが可能です。５年研修プログラム修了後は、常勤、非常勤勤務などで診療や医院マネジメントに参加することができます。詳しくは　https://www.bell-dental.com/recruit/resident/　より資料をご請求ください。

研修歯科医の募集および採用方法

■ 応募資格

・令和３年３月に歯学部卒業見込者または歯学部既卒者で、第 114 回歯科医師国家試験を受験する者

・本院は歯科医師臨床研修マッチングプログラムに参加する予定であるため、歯科医師臨床研修マッチング協議会が行うマッチングに参加登録予定の者

■ 募集定員　２名

■ 選考について

選考日	令和２年８月１日～９月 30 日の指定する日（応募時に決定）
選考場所	ベル歯科医院（選考の詳細な時間等は応募者へ直接連絡する）
選考方法	面接、筆記試験（歯科臨床）、論文提出（テーマは応募受理時に応募者へ直接連絡する）
発表日	令和２年 10 月 20 日のマッチング発表

研修プログラムの内容

【プログラム名称】

ベル歯科医院歯科医師臨床研修プログラム

① ベル歯科医院

期間	令和３年４月～令和４年３月（12 ヵ月）	
内容	患者（新患または前研修医からの引き継ぎ）の配当を受け、担当医制で総合診療研修を行う。口腔外科、矯正科等の専門医のアシスト研修およびその指導下での担当患者の診療を行う。	
分野	基本習熟コース	医療面接、総合診療計画、予防・治療基本技術、応急処置、高頻度治療、医療管理、地域医療
	基本習得コース	救急処置、医療安全・感染予防、経過評価管理、予防・治療技術、医療管理、地域医療

② 海老名総合病院歯科口腔外科（研修協力施設）

期間	令和３年９月～令和３年 11 月の平日１日 / 週（合計 12 日間）	
内容	口腔外科（外来、入院、手術）、全身管理、救急処置、摂食嚥下、病診連携のアシスト研修あるいは診療研修を行う	
分野	基本習熟コース	医療面接、総合診療計画、予防・治療基本技術、応急処置、高頻度治療、医療管理、地域医療
	基本習得コース	救急処置

③特別養護老人ホーム　陽だまり

④特別養護老人ホーム　和心

⑤特別養護老人ホーム　さつき

期間	令和３年４月～令和４年３月（各３日間）	
内容	訪問診療患者の歯科治療（応急処置、高頻度治療、口腔ケア、全身管理）のアシスト研修あるいは診療研修を行う	
分野	基本習熟コース	医療面接、総合診療計画、予防・治療基本技術、応急処置、高頻度治療、医療管理、地域医療
	基本習得コース	救急処置、医療安全・感染予防、経過評価管理、予防・治療技術、医療管理、地域医療

詳細は P.5 ～ P.16 をご覧ください

令和３年度
ベル歯科医院歯科医師臨床研修プログラム
【協力型・東京医科歯科大学】

研修プログラム
「令和３年度東京医科歯科大学歯学部附属病院歯科臨床研修プログラム」を参照してください。

募集について
□応募資格
- 令和３年３月に歯学部卒業見込者または歯学部既卒者で、第114回歯科医師国家試験を受験する者
- マッチングの結果、東京医科歯科大学歯学部附属病院での臨床研修プログラム１へ仮採用された者

□募集定員
- 後期１名

研修期間および施設
（前期）令和3年4月1日～令和3年9月30日の６カ月間
プログラム１Ａ
（前期）ベル歯科医院
（後期）東京医科歯科大学

（後期）令和3年10月1日～令和4年3月31日の６カ月間
プログラム1B
（前期）東京医科歯科大学
（後期）ベル歯科医院

応募・選考・採用について
「令和３年度東京医科歯科大学歯学部附属病院歯科臨床研修プログラム」 をご覧ください

処　遇
本冊子（P.13頁）を参照してください。

特記事項
- ベル歯科医院は東京医科歯科大学の協力型臨床研修施設である。
- 東京医科歯科大学の協力型研修期間は６ヵ月である。
- 各大学協力型臨床研修の内容は、ベル歯科医院歯科臨床研修プログラム（単独型）に準ずるが、研修協力施設（海老名総合病院他）での研修は実施しない。

詳細はP.13をご覧ください

目　次

研修プログラム概要（単独型・協力型概要） 01
キャリアパス 03
ベル歯科医院５年研修プログラムとは 04

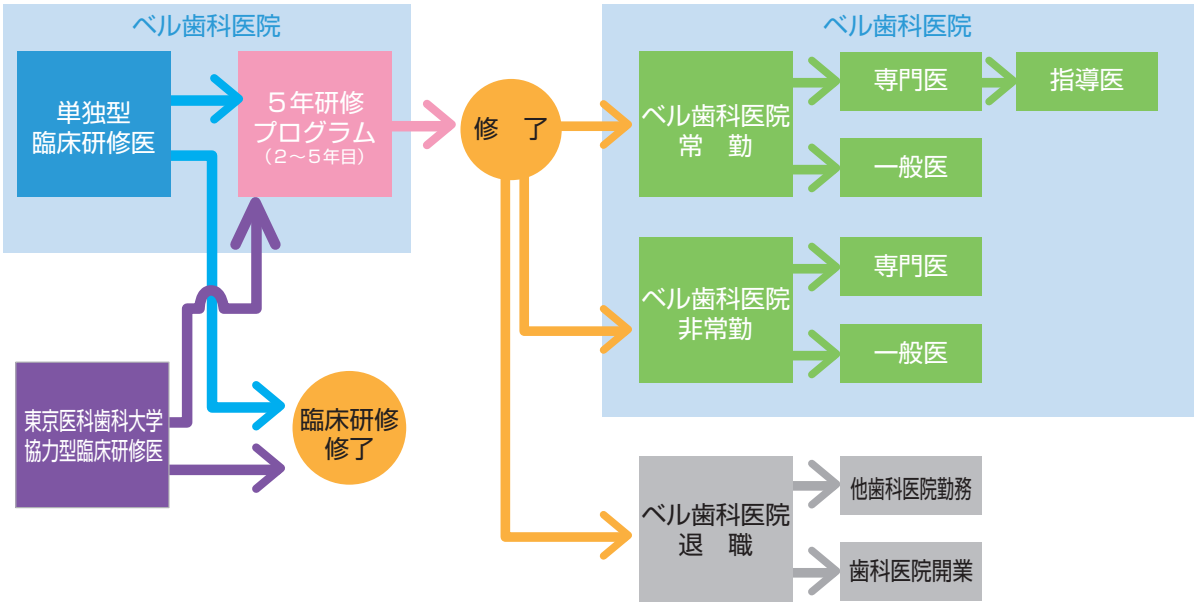
１年目研修プログラム 05
歯科医師臨床研修プログラムの特徴 07
ベル歯科医院臨床研修を行った研修歯科医師のレポート 11
令和３年度ベル歯科医院歯科医師臨床研修プログラム（単独型） 13

５年研修プログラム歯科医師の２年目～５年目研修プログラム 17
他の人よりも突き抜けた歯科医師になる挑戦 19
職種間連携 20
実績管理 21
外部講習 23
ベル歯科医院の診療内容 25
５年研修プログラム修了者 29
ベル歯科臨床研修５年研修プログラム 31
ベル歯科医院５年研修プログラムがあなたの歯科医師人生で役立つ５つの理由 33

ベル歯科医院の今 35
DR座談会 37
ベル歯科医院の設備 43
歯科医師 45

キャリアパス

詳しくは P.31 です



■単独型臨床研修医

対象者	期間	ゴール	研修内容	定　員	身　分
第 114 回 歯科医師 国家試験合格者	1 年	「予防＋治療型」歯科診療の概念を理解し、その基本的な処置を行うスキルを習得する。	・院長講義 ・ドクター研修 ・診療補助 ・診査、診断、治療計画作成 ・基本的な保存治療 ・基本的な補綴治療 ・基本的な予防処置 ・病院実習　等	2 名	国が定める 臨床研修医

■協力型臨床研修医

対象者	期間	ゴール	研修内容	定　員	身　分
第 114 回 歯科医師 国家試験合格者 ※東京医科歯科大学の選考でマッチングした者	6ヶ月	単独型と同じ	単独型研修に準じるが、期間は6ヶ月のため、その一部となる	前期 1 名	国が定める 臨床研修医
				後期 1 名	国が定める 臨床研修医

■５年研修プログラム

対象者	期間	ゴール	研修内容	定　員	身　分
ベル歯科医院で1年の臨床研修を終了した者	4年 協力型から編入した場合は4.5 年	「予防＋治療型」歯科診療の概念に基づいた診療計画を立案、処置を担当するとともに歯科衛生士によるメンテナンスの管理を行うことができるスキルを習得する。	総合的な保存、補綴、口腔外科治療、予防処置（メンテナンス）の診査・診断・計画作成・処置・再評価 歯科診療を行う上での医院マネジメント	各年次 1～2 名	常勤歯科医師

5年研修プログラム

ベル歯科医院5年研修プログラムとは

臨床歯科医を養成するプログラム

世界的に見て臨床歯科医養成のプログラムが最も整備されている国は米国です。
米国では歯学部を卒業したあと、専門医の資格を取得したい歯科医師向けに大学院が整備されています。大学院では補綴、インプラント、エンド、矯正など各診療科目別に2～4年間診療に専念させ、所定の症例数、診療結果を満たした上で、試験に合格すると専門医に認定される仕組みとなっています。

日本の大学院では主に研究と論文作成を行います。目標は、学会で論文が受理されて学位を取得することです。研究を重視しているため、米国の臨床医向け大学院に比べて臨床技能の訓練に時間を割くことができません。

臨床技能を修得したい歯科医師にとって、日本でも米国並みの研修環境が求められています。歯科医療分野においてもそのような環境を整備することは重要な課題です。

ベル歯科医院は、2010年に厚生労働省より単独型研修施設として認定されたことを機に、米国の大学院プログラムを参考に2011年より5年研修プログラムを創設することにしました。
目標は、5年間で日本国内はもちろん、海外の臨床歯科医師にも引けを取らない水準の臨床歯科医師へ育てることです。

なぜ5年間なのか

臨床歯科医師である限り、研修期間は現役時代ずっと続きますが、区切りが必要です。
第一目標は最初の1年間、第二目標が最初の5年間が適切であると考えます。

ベル歯科医院のプログラムは、厚生労働省が義務づけた1年間の歯科医師臨床研修プログラムからスタートします。その修了後の4年間は、勤務医として在籍しながら引き続き研修を行います。

5年間は、臨床技能の修得に必要十分な時間であり、年齢的にも30歳前後（24～25歳で大学卒業した場合）で節目を迎える時期です。このプログラムで5年間の研修を行った歯科医師は、期待通りの成果を得ることができています。

☛ P.29「5年研修プログラム修了者」

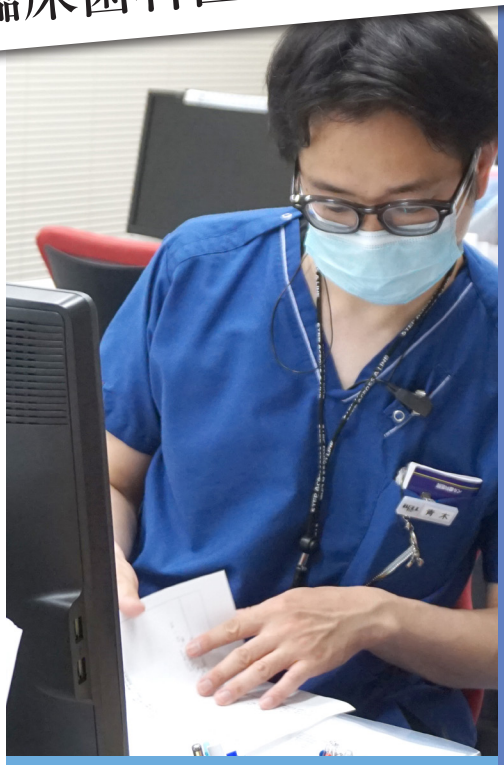
■1年目の詳細は P. 5～ P.16 をご覧ください

■2年目～5年目の詳細は P.17 ～ P.34 をご覧ください

1年目 歯科医師臨床研修プログラム

Training program

臨床歯科医師になるために



歯科医師臨床研修

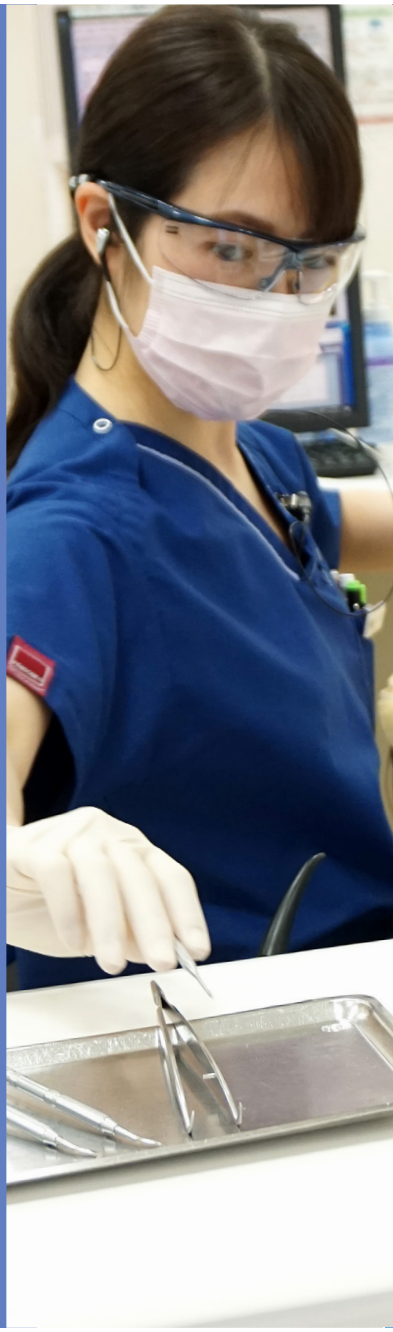
歯科医師臨床研修の１年間は、専門知識を臨床経験に結びつける期間である。

当院研修医の到達目標は、１つ目に主訴への応急・暫間処置ができるようになること、２つ目に主訴以外の問題点を発見し、問題解決へ患者を誘導すること、３つ目に基本的な予防処置をできるようにすることである。

初診患者の診療

初診で来院する患者の主訴は、15種類に集約できる（表1）。この主訴に対して、まず的確な問診と診査を行う。その結果から診断名を決定。初診当日中に応急処置で疼痛緩和、最低限の機能回復を行う。来院２日目以降は、急性症状等の消退が確認できたら数回の通院で暫間処置により当面の機能回復を図る。これが臨床研修医の第１の課題である。当院の臨床研修医は、１年間で初診患者150名、担当患者400名の診療を行っている。

主訴で来院した患者は、主訴以外にも口腔内や顎咬合系に問題点を抱えていることが多い。本人が気づいている第２・第３主訴もあるが、自覚症状がないために問題点を認識していない場合も少なくない。臨床研修医の２つ目の課題は、問診や検査からこれらの問題点を発見し、「Problem List（問題点リスト）」を作成することである。続いてゴール設定・治療計画立案・選択肢の提示・患者の選択を経て患者を問題解決へ誘導する（表2）。この課題は研修医自身の知識・経験を駆使する必要があり、非常にハードルが高い。しかし、専門医や上級の研修医の力を借りながら挑戦することで実力をつけていくことができる。



予防診療

予防処置からは治療とは異なった効果を得ることができる。細菌数減少・歯肉炎のコントロール・歯面の再石灰化・う蝕の進行抑制などの効果だ。この処置を行うのは主に歯科衛生士である。歯科医師は自ら行う機会が少ないために、予防処置の効果を知らずに治療で片付けようとする傾向がある。それを避けるために、当院では研修医１年目にPTC・PMTC・ポケット内洗浄・フッ化物塗布・セルフケア指導・キシリトール摂取指導などの予防処置を担当し、その効果を体験するプログラムを組み入れている。この経験は、治療計画と予後予測の能力を高めるために大変有効である。

Ⅰ 理念

歯科医師の業務範囲は、臨床（診療）・研究・教育・公衆衛生に分けられます。中でも臨床は歯科医師の中心的業務であり、多くの歯学生は臨床家を目指しているでしょう。

当院の歯科医師臨床研修（単独型１年間）では、臨床業務能力の向上に焦点を当てています。

表1 初診患者の15主訴

1. 補綴物脱離
2. C2(永久歯の象牙質う蝕)
3. 小児 C2(乳歯の象牙質う蝕)
4. 知覚過敏
5. C3(永久歯の歯髄炎)
6. 小児の C3(乳歯の歯髄炎)
7. 歯周病急発
8. Per(根管の慢性病変・急性病変)
9. 歯冠破折、歯根破折
10. 義歯不適合
11. 智歯周囲炎、埋伏歯病変
12. 健康診査
13. 顎関節症
14. 不正咬合
15. 粘膜病変

表2 問題解決へのプロセス

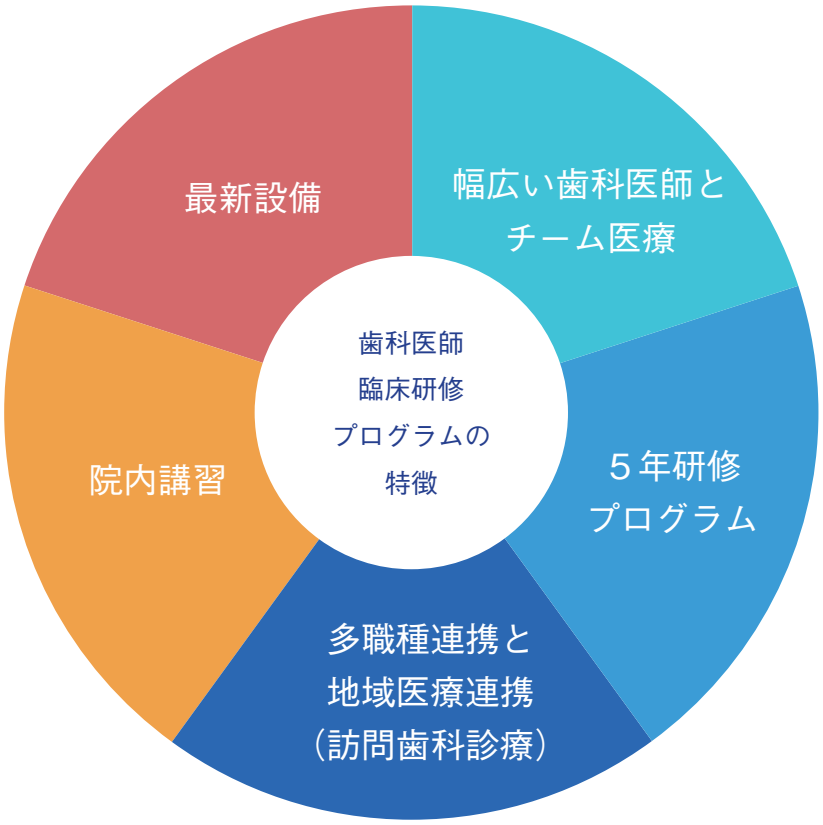
1. 問診、診査、各種検査
2. ゴールの立案
3. 治療計画立案：治療、経過観察、予防を組み合わせた複数案の作成
4. ゴール、計画のプレゼン、選択肢の提示
5. 患者自身の選択
6. 処置の実行
7. 再評価：必要に応じてゴール、計画の再検討、修正
8. 処置の継続
9. ゴールの達成
10. メンテナンス継続：口腔健康の長期維持

Ⅱ 歯科医師臨床研修プログラムの特徴

歯科医療の目標は、生涯にわたる口腔の機能性、審美性維持を実現することである。

ベル歯科医院で、「予防＋治療型」歯科診療を研修することにより、う蝕・歯周病・咬合の機能、審美回復と維持の知識と技能を修得することができる。

研修協力施設では、口腔外科、全身管理、救急処置を体験することができる。



Ⅲ 研修のねらい

1. 歯科医師として好ましい態度・習慣を身につけ、患者および家族とのよりよい人間関係を確立する。
2. 全人的な視点から得られたさまざまな医療情報を理解し、それに基づいた総合治療・予防計画を立案する。
3. 歯科疾患と障害の予防および治療における基本的技能を身につける。
4. 一般的によく遭遇する応急処置と、頻度の高い歯科治療処置を確実に実施する。
5. 歯科診療時の全身的偶発事故に適切に対応する。
6. 自ら行った処置の経過を観察、評価し、診断と治療に常にフィードバックする態度・習慣を身につける。
7. 専門的知識や高度先進的歯科医療に目を向け、生涯研修への動機付けを高める。
8. 歯科医師の社会的役割を認識し、実践する。

Ⅳ 研修の目標

「基本習熟コース」は、研修歯科医自らが確実に実践できることを基本とし、臨床研修後に習熟すべき
「基本習得コース」は、多くの症例で臨床経験を積むことが基本である。

研修内容	必要症例数	認定症例	評価項目
初診（新患･再初診）	50	配当患者への診査から計画までを制限時間内に行う	医療面接、診査、仮診断、主訴部位の治療計画、患者への説明
初診（リコール）	50	配当患者への診査から計画までを制限時間内に行う	医療面接、診査、リスク度判定、処置計画、患者への説明・指導・提案
保存修復	30	臼歯Ⅰ級、Ⅱ級、前歯Ⅲ級、Ⅳ級の CR 充填（直接法）	術前診査・う蝕処置・充填処置・術後評価
歯内治療	5	抜髄または再根管治療	X 線診査、前処置、根管形成、根管充填、術後評価
歯周治療	5	歯周基本治療（初期治療）終了まで	診査（X 線、口腔内写真を含む）、診断、計画、初期治療（SRP,PMTC, 超音波洗浄を含む）、再評価
歯冠補綴	5	クラウン（間接法）	診査、診断、計画、形成、印象、試適、装着、術後評価
欠損補綴	5	レジン床義歯・新規制作（最低 1 症例）	診査、診断、計画、前処置、制作、調整、装着、術後調整、評価
		レジン床義歯・修理（最低 1 症例）	診査、診断、計画、処置、術後評価
口腔外科処置	30	口腔外科処置第 1 助手（最低 10 症例）	普通抜歯、難抜歯、インプラント埋入術
		口腔外科術後処置（最低 10 症例）	第 1 助手で担当した症例の術後処置、術後評価
		抜歯（最低 10 症例）	診査、診断、計画、外科処置、術後処置、術後評価
矯正処置	10	検査（最低 5 症例）	診査、分析
		診療補助（最低 5 症例）	処置の第 1 助手、診療ステップの一部担当
訪問診療	20	診療補助（最低 10 症例）	処置の第 1 助手
		保存、補綴処置（最低 1 症例）	診療助手との連携、患者とのコミュニケーション、現場での判断力
		口腔ケア（最低 5 症例）	患者とのコミュニケーション、現場での判断力
症例発表	1	臨床症例発表会での症例発表	記録の正確性、考察力

Ⅴ 研修の期間

令和３年４月１日～令和４年３月 31 日の１年間

■単独型臨床研修医

対象者	第 114 回 歯科医師国家試験合格者
期間	１年（令和３年４月１日～令和４年３月 31 日）
ゴール	「予防＋治療型」歯科診療の概念を理解し、その基本的な処置を行うスキルを習得する。
研修内容	● 院長講義 ● ドクター研修 ● 診療補助 ● 診査、診断、治療計画作成 ● 基本的な保存治療 ● 基本的な補綴治療 ● 基本的な予防処置 ● 病院実習　等
定　員	２名
身　分	国が定める臨床研修医

■協力型臨床研修医

対象者	第 114 回 歯科医師国家試験合格者 ※東京医科歯科大学の選考でマッチングした者	
期間	６ヶ月（令和３年 10 月１日～令和４年３月 31 日）	
ゴール	単独型と同じ	
研修内容	単独型研修に準じるが、期間は６ヶ月のため、その一部となる	
定員/身分	後期１名	国が定める臨床研修医

Ⅵ 歯科医師臨床研修プログラムの内容

現場での歯科診療をはじめ、カンファレンスや地域連携など、様々な場面で学ぶ環境が整っています。担当患者の診療のほか、院長・口腔外科・矯正専門医の診療補助も担当。訪問歯科の同行もスケジュールに組み込まれています。単独型プログラムでは、例年９月～ 12 月の木曜日に研修協力施設である海老名総合病院で口腔外科実習が行われます。

ベル歯科医院内

■矯正診療［月３回］

■口腔外科［月１回］

■カルテチェック［毎日］

■訪問歯科診療

【診療日数】20 日 / 月
【標準診療時間】9：30 ～ 17：00
【診療延べ患者数】180 人 / 月
【1 日あたり】10 ～ 17 人 / 日

歯科医師（常勤・専属　）：	1 名
歯科助手（常勤・兼務）　：交代で	1 名
歯科衛生士（パート・専属）：	1 名
訪問事務（パート・専属）：	1 名

外科カンファレンス

矯正カンファレンス

外科カンファレンス
・月曜　14：00 ～（月 1 回）
　主に診断と治療計画について討議する

矯正カンファレンス
・火曜　14：00 ～（月 1 回）
　主に矯正治療開始時期と治療内容について
　討議する

地域医療連携

■海老名市歯科医師会会員としてイベントに参加

Ⅶ 受入と進路

臨床研修歯科医師の受入れは常にゆとりを持たせています。ベル歯科医院での歯科医師臨床研修が、より濃くなるように指導環境をしっかりと整えています。

修了後の進路もサポートし、将来設計について一緒に考えていきます。

臨床研修歯科医の定員と受け入れ人数

■単独型臨床研修医

研修年度	選考年	定員	応募	内定	採用	編入
2020 年度	2019 年	2	9	2	2	0
2019 年度	2018 年	3	8	3	1	0
2018 年度	2017 年	3	4	3	3	0
2017 年度	2016 年	2	3	2	2	0
2016 年度	2015 年	2	0	0	0	2

■協力型臨床研修医

研修年度	前　期	後　期	年　間
2020 年度	0	0	0
2019 年度	0	1	1
2018 年度	0	1	1
2017 年度	0	1	1
2016 年度	1	0	1

研修修了後の進路

■単独型臨床研修医

研修年度	5年研修プログラム 2年次	他診療所勤務	大学へ	中断
2019 年度	0	0	1	0
2018 年度	1	2	0	0
2017 年度	1	1	0	0
2016 年度	0	1	0	1

■協力型臨床研修医

研修年度	5年研修プログラム 2年次	他診療所勤務	大学へ	中断
2019 年度	0	0	1	0
2018 年度	0	1	0	0
2017 年度	0	0	1	0
2016 年度	0	0	1	0

過去の臨床研修医 在籍一覧

■単独型臨床研修医

年度	出身大学	性別
2020 年度	長崎大学	男
	日本歯科大学	女
2019 年度	東北大学	女
2018 年度	新潟大学	男
	鶴見大学	男
	東京医科歯科大学	男

■協力型臨床研修医

年度	出身大学	性別
2020 年度	なし	ー
2019 年度	鹿児島大学	女
2018 年度	九州歯科大学	女

令和３年度
ベル歯科医院歯科医師臨床研修プログラム
（単独型）

I. 理念

卒前教育で学んだ基本的な診療能力（態度、技能および知識）を定着し、それらを一体化してさらに高度な診療能力を身につけ、生涯研修の必要性を認識し、健康増進に寄与する歯科医療を提供できる、国民の期待に応える資質の高い医療人を養成することを目的とする。

II. 研修プログラムの特徴

歯科医療の目標は、生涯にわたる口腔の機能性、審美性維持を実現することである。
ベル歯科医院で、「予防＋治療型」歯科診療を研修することにより、う蝕・歯周病・咬合の機能、審美回復と維持の知識と技能を修得することができる。
研修協力施設では、口腔外科、全身管理、救急処置を体験することができる。

III. 研修のねらい

① 歯科医師として好ましい態度・習慣を身につけ、患者および家族とのよりよい人間関係を確立する。
② 全人的な視点から得られたさまざまな医療情報を理解し、それに基づいた総合治療・予防計画を立案する。
③ 歯科疾患と障害の予防および治療における基本的技能を身につける。
④ 一般的によく遭遇する応急処置と、頻度の高い歯科治療処置を確実に実施する。
⑤ 歯科診療時の全身的偶発事故に適切に対応する。
⑥ 自ら行った処置の経過を観察、評価し、診断と治療に常にフィードバックする態度・習慣を身につける。
⑦ 専門的知識や高度先進的歯科医療に目を向け、生涯研修への動機付けを高める。
⑧ 歯科医師の社会的役割を認識し、実践する。

IV. 研修の目標

「基本習熟コース」は、研修歯科医自らが確実に実践できることを基本とし、臨床研修後に習熟すべき「基本習得コース」は、多くの症例で臨床経験を積むことが基本である。
※ P.16 の表参考

V. 研修期間

研修期間は令和３年４月１日から令和４年３月31日の１年とする。

VI. 研修施設の概要

①ベル歯科医院（単独型臨床研修施設）

所在地	神奈川県海老名市中央１－20－43
臨床研修施設長	鈴木　彰
プログラム責任者	鈴木　彰（研修管理委員会委員長）
副プログラム責任者	大澤次郎
臨床研修指導医	鈴木　彰、大澤次郎
事務部門の責任者	佐久間美都

②海老名総合病院（研修協力施設）

所在地	神奈川県海老名市河原口１３２０
研修実施責任者	石井良昌（歯科口腔外科部長）
臨床研修指導医	石井良昌
事務部門の責任者	梅沢亮（管理課係長）

③特別養護老人ホーム　陽だまり（研修協力施設）

所在地	神奈川県海老名市社家 505 番地
研修実施責任者	樋口洋二（施設長）

④特別養護老人ホーム　和心（研修協力施設）

所在地	神奈川県海老名市大谷南 3-20-15
研修実施責任者	金子直浩（施設長）

⑤特別養護老人ホーム　さつき（研修協力施設）

所在地	神奈川県海老名市河原口 1383
研修実施責任者	小林由貴子（施設長）

VII.　研修歯科医の指導体制

① ベル歯科医院での診療研修では、担当患者の診療計画立案時、各診療前、各診療後に指導歯科医が確認を行い、診療中は必要に応じて即時に指導対応する。
② 週１回以上担当患者のカンファレンス、実技指導、文献輪読等の指導を行う。
③ 研修協力施設では、指導歯科医が診療前、診療中、診療後に必要に応じて指導対応する。
④ プログラム責任者は定期的に指導歯科医会議を開催し、研修状況を確認する。

VIII. 研修プログラムの内容

【プログラム名称】
ベル歯科医院歯科医師臨床研修プログラム
① ベル歯科医院

期間	令和３年４月～令和４年３月（12ヵ月）	
内容	患者（新患または前研修医からの引き継ぎ）の配当を受け、担当医制で総合診療研修を行う。口腔外科、矯正科等の専門医のアシスト研修およびその指導下での担当患者の診療を行う。	
分野	基本習熟コース	医療面接、総合診療計画、予防・治療基本技術、応急処置、高頻度治療、医療管理、地域医療
	基本習得コース	救急処置、医療安全・感染予防、経過評価管理、予防・治療技術、医療管理、地域医療

② 海老名総合病院歯科口腔外科

期間	令和３年９月 ～令和３年 12 月の平日１日 / 週（合計 12 日間）	
内容	口腔外科（外来、入院、手術）、全身管理、救急処置、摂食嚥下、病診連携のアシスト研修あるいは診療研修を行う	
分野	基本習熟コース	医療面接、総合診療計画、予防・治療基本技術、応急処置、高頻度治療、医療管理、地域医療
	基本習得コース	救急処置

③特別養護老人ホーム　陽だまり
④特別養護老人ホーム　和心
⑤特別養護老人ホーム　さつき

期間	令和３年４月～令和４年３月（各３日間）	
内容	訪問診療患者の歯科治療（応急処置、高頻度治療、口腔ケア、全身管理）のアシスト研修あるいは診療研修を行う	
分野	基本習熟コース	医療面接、総合診療計画、予防・治療基本技術、応急処置、高頻度治療、医療管理、地域医療
	基本習得コース	救急処置、医療安全・感染予防、経過評価管理、予防・治療技術、医療管理、地域医療

IX. 研修の評価と修了認定

①研修歯科医の評価

1　臨床基本研修

（ア）オリエンテーション、研修歯科医セミナー、院外で実施される各種講習会への出席を評価する。

（イ）外部研修では報告書を提出し、研修プログラム責任者が評価する。

2　協力研修施設での研修

外部研修協力施設では、研修実施責任者が出席、研修態度、研修習熟度、研修達成度を評価する。

3　総合診療研修

（ア）診療に当たっては、指導歯科医の元、各診療で定められた手順に従って診療を進める

（イ）指導歯科医は、研修歯科医の研修態度、習熟度、達成度を把握し、随時助言、指導を行う。

（ウ）研修の第１段階では、診療ステップ毎に指導歯科医のチェックを受けて診療を進める

（エ）研修の第２段階では、診療日ごとに指導歯科医のチェックを受けて診療を進める

（オ）研修の第３段階では、研修歯科医は症例終了毎に指導歯科医へ報告を行う。

（カ）指導歯科医は、症例報告時に評価項目実施の有無認定、品質評価を行い、適切と判断した症例を認定する。

（キ）研修歯科医は、各研修内容で認定症例数が修了判定時までに必要症例数を超えるよう総合診療研修を計画的に行わなければならない。

（ク）総合診療研修の修了認定に必要な症例数および評価項目（別表 / 下）

②修了認定

1 臨床研修管理委員会で研修態度および研修内容を総合的に評価する

2 厚生労働省の修了判定基準をもとに院長が修了認定の可否を判定する。

3 プログラムの目標に到達したと評価された研修歯科医には、院長より研修修了証が交付される。

③臨床研修の中断

1 中断とは、あらかじめ定められた研修期間の途中で臨床研修を中止した場合をいう。

2 医院側の中断理由は、次の場合である。

（ア）当該臨床研修施設の廃院・指定取消の場合

研修内容	必要症例数	認定症例	評価項目
初診 （新患･再初診）	50	配当患者への診査から計画までを制限時間内に行う	医療面接、診査、仮診断、主訴部位の治療計画、患者への説明
初診 （リコール）	50	配当患者への診査から計画までを制限時間内に行う	医療面接、診査、リスク度判定、処置計画、 患者への説明・指導・提案
保存修復	30	臼歯Ⅰ級、Ⅱ級、前歯Ⅲ級、 Ⅳ級の CR 充填（直接法）	術前診査・う蝕処置・充填処置・術後評価
歯内治療	5	抜髄または再根管治療	X 線診査、前処置、根管形成、根管充填、術後評価
歯周治療	5	歯周基本治療（初期治療）終了まで	診査（X 線、口腔内写真を含む）、診断、計画、 初期治療（SRP,PMTC, 超音波洗浄を含む）、再評価
歯冠補綴	5	クラウン（間接法）	診査、診断、計画、形成、印象、試適、装着、術後評価
欠損補綴	5	レジン床義歯・新規制作 （最低１症例）	診査、診断、計画、前処置、制作、調整、装着、術後調整、評価
		レジン床義歯・修理 （最低１症例）	診査、診断、計画、処置、術後評価
口腔外科処置	30	口腔外科処置第１助手 （最低 10 症例）	普通抜歯、難抜歯、インプラント埋入術
		口腔外科術後処置 （最低 10 症例）	第１助手で担当した症例の術後処置、術後評価
		抜歯（最低 10 症例）	診査、診断、計画、外科処置、術後処置、術後評価
矯正処置	10	検査（最低５症例）	診査、分析
		診療補助（最低５症例）	処置の第１助手、診療ステップの一部担当
訪問診療	20	診療補助（最低 10 症例）	処置の第１助手
		保存、補綴処置（最低１症例）	診療助手との連携、患者とのコミュニケーション、現場での判断力
		口腔ケア（最低５症例）	患者とのコミュニケーション、現場での判断力
症例発表	1	臨床症例発表会での症例発表	記録の正確性、考察力

（イ）研修歯科医が臨床研修医としての適正を欠き、改善が不可能な場合
（ウ）その他正当な理由がある場合で、研修歯科医の研修継続が困難と研修管理委員会が評価、勧告した場合

3. 研修歯科医側の中断理由は、次の場合である。
（ア）研修歯科医から管理者へ、妊娠・出産・育児・傷病等で長期休止を申し出て、修了に必要な日数を満たせない場合
（イ）研修、留学等の多様なキャリア形成のため研修を中止する場合
（ウ）その他正当な理由がある場合

④臨床研修の未修了

1 未修了とは、臨床研修医の研修期間の修了に際する評価において、修了基準を満たしていない場合をいう

2 修了認定に必要な研修実施期間は傷病、妊娠、出産、育児、その他の正当な理由（研修プログラムで定められた年次休暇を含む）での休止期間が 1 年間を通じて 45 日以内（研修施設において定める休日を含めない）である。45 日を越える場合は、未修了となる

3 未修了者は引き続き同一の研修プログラムで研修を行うことが前提となる

4 当該研修歯科医が到達すべき研修認定日数に達し、かつ修了認定を受けた場合は、個別の修了日により修了証を交付する。

X. 管理・運営

① ベル歯科医院歯科医師臨床研修管理委員会（以下臨床研修委員会）を設置する

② ベル歯科医院における臨床研修の管理・運営は、臨床研修委員会のもとで行う。

③ 研修協力施設の管理・運営は、臨床研修委員会が必要に応じて助言、支援をする。

XI. 募集および採用方法

① 応募資格

・令和３年３月に歯学部卒業見込者または歯学部既卒者で、第 114 回歯科医師国家試験を受験する者

・本院は歯科医師臨床研修マッチングプログラムに参加する予定であるため、歯科医師臨床研修マッチング協議会が行うマッチングに参加登録予定の者

② 募集定員　２名

③ 研修期間　令和3年4月1日から令和4年3月31日の1年間

④ 処遇等

職　　名	臨床研修医
常勤･非常勤の別	常勤
給　　与	日額 10,000 円
時間外･休日手当等	なし
勤務時間	（月・火・水・金） 午前９時 30 分～午後７時 20 分
	（土） 午前９時 30 分～午後６時 20 分
	但し、研修医が自主的に行う研修についてはこの限りではない
休　　日	日曜日、木曜日、祝祭日
休　　暇	勤務６ヵ月以上で有給休暇 10 日
宿　　舎	あり
病院内控室	あり
健康保険	神奈川県歯科医師国民健康保険へ加入
年　　金	厚生年金へ加入
労災保険	適用あり
雇用保険	適用あり
健康管理	健康診断を年１回実施
歯科医師賠償責任保険	個人として加入義務あり
外部研修活動	学会等への参加可、費用は原則自己負担

⑤ 研修歯科医の研修専念義務

1 歯科医師法第 16 条の２
診療に従事しようとする歯科医師は、１年以上、歯学若しくは歯学を履修する課程を置く大学に附属する病院（歯科医業を行わないものを除く）又は厚生労働大臣の指定する病院若しくは診療所において、臨床研修を受けなければならない。

2 歯科医師法第 16 条の３
臨床研修を受けている歯科医師は、臨床研修に専念し、その資質の向上に努めなければならない。

3 上記歯科医師法の規定により、研修歯科医は臨床研修に専念する義務が課せられており、研修期間中のアルバイト等を行うことはできない。

⑥ 応募手続

応募書類	マッチングに参加を前提の上、以下の書類をベル歯科医院に持参するか、書留郵便にて提出のこと （ア）履歴書（所定の用紙へ記入する） （イ）卒業（見込）証明書 （ウ）成績証明書 （各自の出身大学により封印されたもの） （エ）健康診断書 （オ）HBs 抗原及び抗体検査結果
提 出 先	ベル歯科医院 〒 243-0432　神奈川県海老名市中央 1-20-43
出願期間	令和２年６月１日～８月 31 日

⑦選考について

選考日	令和２年８月１日～９月 30 日の指定する日（応募時に決定）
選考場所	ベル歯科医院 （選考の詳細な時間等は応募者へ直接連絡する）
選考方法	面接、筆記試験（歯科臨床）、論文提出（テーマは応募受理時に応募者へ直接連絡する）

⑧採用について

1 マッチング組み合わせ決定（令和２年 10 月 20 日）により仮採用
仮採用時に、本採用決定後に提出する書類（用紙）を交付する

2 第 114 回歯科医師国家試験の結果、合格者のみ本採用

3 本採用された者は、仮採用時に交付した書類に記入の上、指定日までに提出して採用手続を行うこと

⑨その他

1 当院は、歯科医師臨床研修マッチング協議会が行う令和３年度歯科医師臨床研修マッチングプログラムに参加するため、令和２年６月６日～７月 28 日に歯科医師臨床研修マッチング協議会（D-REIS）のホームページマッチング参加登録を行うこと。

2 応募書類は、理由の如何に関わらず返還しない。

3 ベル歯科医院は東京医科歯科大学の協力型臨床研修施設である。東京医科歯科大学でのマッチングの結果、当院が研修施設となった場合の研修期間は６ヵ月である。

1歯科医師臨床研修 「基本習熟コース」

[一般目標]
個々の歯科医師が患者の立場に立った歯科医療を実践できるようになるために、基本的な歯科診療に必要な臨床能力を身に付ける。

	目標分類	内　容
医療面接	一般目標	患者中心の歯科診療を実施するために、医療面接についての知識、態度、技能を身に付け実践する。
	行動目標	① コミュニケーション・スキルを実践する。 ② 病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴）聴取を的確に行う。 ③ 病歴を正確に記録する。 ④ 患者の心理・社会的背景に配慮する。 ⑤ 患者・家族に必要な情報を十分に提供する。 ⑥ 患者の自己決定を尊重する（インフォームドコンセントの構築）。 ⑦ 患者のプライバシーを守る。 ⑧ 患者の心身におけるQOL（Quality of Life）に配慮する。 ⑨ 患者教育と治療への動機付けを行う。
総合診療計画	一般目標	効果的で効率の良い歯科診療を行うために、総合治療計画の立案に必要な能力を身に付ける。
	行動目標	① 適切で十分な医療情報を収集する。 ② 基本的な診査（基本的な検査を含む）を実践する。 ③ 基本的な診査の所見を判断する。 ④ 得られた情報から診断する。 ⑤ 適切と思われる治療法及び別の選択肢を提示する。 ⑥ 十分な説明による患者の自己決定を確認する。 ⑦ 一口腔単位の治療計画を作成する。
予防・治療基本技術	一般目標	歯科疾患と機能障害を予防・治療・管理するために、必要な基本的技術を身に付ける。
	行動目標	① 基本的な予防法の手技を実施する。 ② 基本的な治療法の手技を実施する。 ③ 医療記録を適切に作成する。 ④ 医療記録を適切に管理する。
応急処置	一般目標	一般的な歯科疾患に対処するために、応急処置を要する症例に対して、必要な臨床能力を身に付ける。
	行動目標	① 疼痛に対する基本的な治療を実践する。 ② 歯、口腔及び顎顔面の外傷に対する基本的な治療を実践する。 ③ 修復物 補綴装置等の脱離と破損及び不適合に対する適切な処置を実践する
高頻度治療	一般目標	一般的な歯科疾患に対処するために、高頻度に遭遇する症例に対して、必要な臨床能力を身に付ける。
	行動目標	① 齲蝕の基本的な治療を実践する。 ② 歯髄疾患の基本的な治療を実践する。 ③ 歯周疾患の基本的な治療を実践する。 ④ 抜歯の基本的な処置を実践する。 ⑤ 咬合・咀嚼障害の基本的な治療を実践する。
医療管理・地域医療	一般目標	歯科医師の社会的役割を果たすため、必要となる医療管理・地域医療に関する能力を身に付ける。
	行動目標	① 保険診療を実践する。 ② チーム医療を実践する。 ③ 地域医療に参画する。

2歯科医師臨床研修 「基本習得コース」

[一般目標]
生涯にわたる研修を行うために、より広範囲の歯科医療について知識、態度、技能を習得する態度を養う。

	目標分類	内　容
救急処置	一般目標	歯科診療を安全に行うために、必要な救急処置に関する知識、態度、技能を習得する。
	行動目標	① バイタルサインを観察し、異常を評価する。 ② 服用薬剤の歯科診療に関連する副作用を説明する。 ③ 全身疾患の歯科診療上のリスクを説明する。 ④ 歯科診療時の全身的合併症への対処法を説明する。 ⑤ 一次救命処置を実践する。 ⑥ 二次救命処置の対処法を説明する。
医療安全・感染予防	一般目標	円滑な歯科診療を実施するために、必要な医療安全・感染予防に関する知識、態度、技能を習得する。
		① 医療安全対策を説明する。 ② アクシデント及びインシデントを説明する。 ③ 医療過誤について説明する。 ④ 院内感染対策（Standard Precautions を含む）を説明する。 ⑤ 院内感染対策を実践する。
経過評価管理	一般目標	自ら行った治療の経過を観察評価するために、診断及び治療に対するフィードバックに必要な知識、態度、技能を習得する。
	行動目標	① リコールシステムの重要性を説明する。 ② 治療の結果を評価する。 ③ 予後を推測する。
予防・治療技術	一般目標	生涯研修のために必要な専門的知識や高度先進的技術を理解する。
	行動目標	① 専門的な分野の情報を収集する。 ② 専門的な分野を体験する。 ③ ＰＯＳ（Problem Oriented System ）に基づいた医療を説明する。 ④ ＥＢＭ（Evidence Based Medicine）に基づいた医療を説明する。
医療管理	一般目標	適切な歯科診療を行うために、必要となるより広範囲な歯科医師の社会的役割を理解する。
	行動目標	① 歯科医療機関の経営管理を説明する。 ② 常に、必要に応じて医療情報の収集を行う。 ③ 適切な放射線管理を実践する。 ④ 医療廃棄物を適切に処理する。
地域医療	一般目標	歯科診療を適切に行うために 地域医療について知識 態度 技能を習得する
	行動目標	① 地域歯科保健活動を説明する。 ② 歯科訪問診療を説明する。 ③ 歯科訪問診療を体験する。 ④ 医療連携を説明する。

問合せ

【電　話】０４６（２３４）７５００
【メール】info-bell@bell-dental.com
【担当者】佐久間

■電話対応時間

月・火・水・金	10：00 ～ 19：00
土	10：00 ～ 18：00

ベル歯科臨床研修
5年研修プログラム

Ⅰ．教育目標

歯科医療の目標は、口腔の機能性･審美性を生涯にわたって維持できるように導くことである。
ベル歯科医院臨床研修５年研修プログラムでは、この歯科医療を実践できる臨床歯科医師の人材育成を目標としている。すなわち、高いプロフェッショナリズムをベースに、歯科診療の技能とコミュニケーション能力を修得する。さらに、歯科医療の改善と発展のために管理力・指導力・企画力を備えた人材の育成を図る。５年後の修了時には、日本の臨床現場で活躍できる臨床歯科医および世界で活躍できる歯科医療人材の輩出を目指している。

Ⅱ．Diploma Policy（修了認定の方針）

ベル歯科医院では、歯科診療およびその管理・指導・企画分野の業務で、
①プロフェッショナリズム
②コミュニケーション能力
③歯科診療技能
④管理・指導力
⑤企画力
を身につけた研修医に対して修了認定を授与する。

Ⅲ．Curriculum Policy（教育課程の編成・実施の方針）

Ⅲ -1．学習方針

５年研修プログラムでは、的確な歯科診療技能を修得するために、OJT、院内研修、外部研修を段階的に実施する。また、診療をはじめとするすべての業務を行う際には、正しい業務姿勢としてのプロフェッショナリズムを涵養する。コミュニケーション力は、歯科診療を行う上で診療技能と両輪をなすものとして強化を図る。診療技能が一定水準に到達したあとには、管理力・指導力・企画力を育成する。

１年目は、ベル歯科医院歯科医師臨床研修プログラム（単独型）で定める評価と修了認定を行う。
２年目以降の各診療では、到達すべき目標、正しい業務手順を定め、これを見学・診療補助・術者としての処置などの学習方略を実施する。自己、指導者による品質評価、時間、業務量記録による数量評価を行う。
管理力、指導力、企画力は、その業務達成度、業績への貢献度による評価を行う。

Ⅲ -2．学習分野

A. プロフェッショナリズム
B. コミュニケーション
C. 歯科医療の技能
D. 歯科医療に関する管理・指導力
E. 歯科医療に関する企画力

Ⅲ -3．学習目標

A. プロフェッショナリズム
・歯科診療を実施するための法的根拠、規律、規範、患者の権利、歯科医師の義務について理解し、遵守できる。
・医療人としての高い職業倫理性を有し、患者との間で利益相反を起こさない。
・自らの診療能力を客観的に評価する謙虚さと、生涯にわたって知識・技能を深化させる積極性を有する。
・時間管理を行い、業務を到達目標へ期限内に完了できる。

B. コミュニケーション
・速やかに報告、連絡、相談ができる。
・患者の QOL 向上を実現するために、歯科医師として他職種のスタッフと積極的にコミュニケーションを図り、チーム医療の要となって行動する
・患者の訴えを共感的に傾聴でき、さらに専門的な知識、技術等を分かりやすく説明できる。
・外国語での表現能力とコミュニケーション能力を鍛え、広く世界と交流できる。

C. 歯科医療の技能
・口・顎・顔面領域に発生する疾患、形態・機能異常について、適切な検査法を選択して実施、問題点を抽出し、診断できる。
・患者から診療に必要な情報などを的確に導出し、それに応じて適切で効果的な診療目標を立案することができる。
・口・顎・顔面領域に発生する疾患、形態・機能異常に対して、患者の持つ社会的、個人的背景を考慮しながら治療計画を立案できる。
・基本的な歯科診療を正確、効率的に行うことができる。（研修１年目）
・専門医が行う世界標準の歯科診療を正確、効率的に行うことができる。（研修２～５年目）
・歯科医学研究、歯科診療に用いられる各種薬剤、器材・

器具、機器等を正しく取り扱うことができる。
・歯科医学・医療を巡る社会経済的動向を把握し、地域医療の向上に貢献できる。

D. 歯科医療に関する管理・指導力
①目標設定の技法を理解、習得、実践する。
・後輩歯科医師の指導を通じて、自らの知識・技能の不足点を発見し改善を図ること。
・チーム医療に参加する他職種スタッフを指導し、その知識・技能向上へ導くこと。
・医院運営に必要な人事・経理等の管理業務について理解し、実務を担当できる。

E. 歯科医療に関する企画力
①最新の歯科医学および歯科医療行政等に関する情報を的確に収集できる。
②歯科医学・医療に関する未知・未解決の問題を発見し、その解決に取り組むことができる。
③広く人文科学、社会科学ならびに自然科学の分野に対して興味を示し、歯科医学の発展に貢献できる。

Ⅳ. Admission Policy（５年研修プログラム研修医受入の方針）

①大学で歯科医学・歯科医療の基礎を修得し、歯科医師国家試験合格で証明された人
②コミュニケーション能力に優れ、他人に対して協調的な態度のできる人
③柔軟性のある思考ができ、豊かな人間性、健全な社会性を備えている人
④社会や科学の進歩に対応し、自立的な問題解決能力を有する人
⑤明確な目的意識を持ち、生涯を通じ学習意欲を持続できる人
⑥世界に目を向け、歯科医療を通じて世界の QOL 向上に貢献する意欲のある人

これらの資質を身につけるために、大学歯学部で歯学を高いレベルまで学習していること、クラブ活動等の課外活動を通じてコミュニケーション能力や人間性、社会性を磨いてきた実績が求められる。５年研修プログラム研修医選考では、筆記試験、面接試験および論文提出によってこれらの資質を評価する。

５年研修プログラム研修医の等級と評価分野

■等級と年次

研修医1年目(歯科医師臨床研修) での等級は見習、2年目～5年目は一般～リーダーの等級となる。各等級は2段階に分かれている。3年目以降は研修達成度により、等級の幅が生まれる。

年　次	1年目（前半）	1年目（前半）	2年目	3年目	4年目	5年目
見習　Ⅰ	◯					
見習　Ⅱ		◯				
一般　Ⅰ			◯	•	•	
一般　Ⅱ				◯	•	•
サブリーダー　Ⅰ					◯	•
サブリーダー　Ⅱ					◉	◯
リーダー　Ⅰ						◉
リーダー　Ⅱ						

（◯ 標準等級　◉ 飛び級）

■資格別評価分野

５年研修プログラム研修医の各等級では、能力向上の段階に合わせて評価の重点が異なる。

等　級	見習Ⅰ	見習Ⅱ	一般Ⅰ	一般Ⅱ	サブリーダーⅠ	サブリーダーⅡ	リーダーⅠ	リーダーⅡ
年　次	1前期	1後期	2	2	4	4～5	5	
ヒューマンスキル	○	○	▲	▲	▲	▲	○	○
態度	○	○	▲	▲	▲	▲	○	○
知識	▲	○	○	○	○	○	◎	◎
技能	△	○	○	○	◎	◎	◎	◎
指導力	ー	ー	△	○	○	○	◎	◎
企画力	ー	ー	△	△	△	○	○	◎

（◎重点評価　○評価　△先行評価　▲確認評価）